

2025年度 事業計画書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

学校法人物療学園 2025年度事業計画
(2025年4月1日～2026年3月31日)

1. はじめに

1933年8月、物療学院として設立した本学園は、2011年4月、診療放射線技師教育を行う単科大学として大阪物療大学を開学いたしました。大学として、無事に開学15年目を迎えることが出来ますのは、教育理念に理解を示してくださった多くの皆様からのご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

私立大学を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いており、特に18歳人口の減少が与える影響は大きく、4年制の私立大学の59.2%が定員割れとなっています。

このような状況下において本来の高等教育機関としての使命を果たし、社会の発展に貢献していくためには、法人自身も発展していける運営基盤を作り上げることが必要です。

建学の精神である「之科為報國修」に基づいた大学の教育理念及び目的を具現化するため、中・長期計画（2020～2029年度）を策定し、5年が経過しました。2025年度は、中・長期計画の振り返りを行い、課題解決の具体的検討を進めていきます。

大学教育においては、学生同士や学生と教職員の人的な交流も重要な要素となります。引き続き、学生の安全を最優先とし、本事業計画に基づき、新しい社会の要請に応える医療職の人材を育成するため、教職員が一丸となって教育・研究活動、学校運営に取り組んでまいります。

【2025年度 予算編成の基本方針】

中・長期計画に基づく事業計画全体の円滑な進捗を管理する。安定した事業活動収入と、計画的な予算執行及びコスト意識の浸透による健全な財政基盤を確立する。

- I 教育研究の質的向上を図りながら、経常的経費を抑制し経費の効率的支出を徹底することで、健全な財政状況を維持できるように努める。
- II 教育活動を円滑に推進するためICT環境を整備し、新しい日常を見据えた施設・設備等の充実を進める。
- III 将来計画に係る用地確保及び学舎建設等に備える。

2. 学校法人の沿革

1933年	(昭和8年)	8月	初代校長田中金造博士を設立者として勅令私立学校令により私立物療学院設立許可を得る
		9月	私立物療学院開校
1934年	(昭和9年)	3月	大阪府大阪市住吉区に校舎完成
		3月	校名を大阪物療学校に改称
1935年	(昭和10年)	4月	エックス線と物理療法全般並びに関連医学の学術技能を教授する許可を得る
1951年	(昭和26年)	6月	校名を大阪物療専門学校に改称
1953年	(昭和28年)	2月	診療エックス線技師養成所として厚生大臣より指定を受ける
1954年	(昭和29年)	4月	第一本科設置
1955年	(昭和30年)	4月	第二本科設置
1958年	(昭和33年)	8月	第二代校長に田中崇宣就任
1969年	(昭和44年)	4月	大阪府大阪市阿倍野区に阿倍野校舎完成
1971年	(昭和46年)	3月	診療放射線技師養成所として厚生大臣より指定を受ける
		4月	第一専攻科設置
1973年	(昭和48年)	10月	学校創立40周年記念式典挙行
1975年	(昭和50年)	4月	第二専攻科設置
1977年	(昭和52年)	4月	専修学校設置基準の制定に伴い、専修学校としての許可を受け、医療専門課程設置認可を得る
1978年	(昭和53年)	4月	第一・第二放射線科設置
1980年	(昭和55年)	3月	第一・第二本科廃止
1981年	(昭和56年)	3月	第一・第二専攻科廃止
1985年	(昭和60年)	10月	学校法人物療学園設立 初代理事長に田中崇宣就任
1988年	(昭和63年)	9月	大阪府堺市鳳に新校舎(現:大学1号館)完成移転
1993年	(平成5年)	8月	学校創立60周年記念式典挙行
1995年	(平成7年)	3月	平成6年度卒業生より専門士(医療専門課程)の称号授与開始
1999年	(平成11年)	5月	大阪物療専門学校第三代校長に田中博司就任
		6月	第二代理事長に田中信行就任
2001年	(平成13年)	4月	第一・第二放射線科を第一・第二放射線学科に改称
2002年	(平成14年)	4月	大阪府堺市下田町に第二校舎(現:大学4号館)完成
		4月	理学療法士・作業療法士養成施設として厚生労働大臣より指定を受ける
		4月	第一・第二理学療法学科設置

- 4月 第一・第二作業療法学科設置
- 2004年（平成16年）4月 学園本部校舎開設（情報処理室併設）
- 12月 イングリッシュガーデン完成（現：大学1号館）
- 2006年（平成18年）4月 第三代理事長に田中博司就任
- 2008年（平成20年）6月 鳳東町運動場完成
- 2010年（平成22年）10月 大阪物療大学保健医療学部診療放射線技術学科設置認可を得る
- 2011年（平成23年）3月 大阪物療専門学校第二放射線学科、第二作業療法学科廃止
- 4月 大阪物療大学 開学
大阪物療大学初代学長に田中博司就任
大阪物療大学保健医療学部診療放射線技術学科設置
- 2012年（平成24年）3月 大阪物療専門学校第二理学療法学科、第一作業療法学科廃止
- 4月 大阪物療専門学校第四代校長に遠藤忠保就任
- 2013年（平成25年）3月 大阪物療専門学校の廃止の認可を得る
- 3月 大阪物療専門学校第一放射線学科、第一理学療法学科廃止
- 3月 大阪物療専門学校 閉校
- 2015年（平成27年）3月 大阪物療大学 第1期生 卒業

3. 法人の概要

(1) 理事長

田中 博司

(2) 理事・監事・評議員数

単位：名

	理事	監事	評議員
定数（2025年4月1日現在）	6	2	13
現員（2025年4月1日現在）	6	2	13

※評議員の定数については、私立学校法改正により、定時評議員会終結の時以降は7名予定

(3) 設置する学校

学校	学部・学科	修業年限	入学定員	収容定員	備考
大阪物療大学	保健医療学部 診療放射線技術学科	4年	80名	320名	2011年度開学

4. 大阪物療大学の概要

(1) 学長

田中 博司

(2) 学生の状況

1) 2025年度在籍者数 (2025年4月1日現在)

単位：名

保健医療学部	2025年度		
	学年	定員	在籍数
診療放射線技術学科	1年	80	77
	2年	80	92
	3年	80	80
	4年	80	73
	合計	320	322

(3) 教職員の状況 (2025年4月1日現在)

1) 専任教員数：21名

2) 専任職員数：20名

5. 2025年度の主な事業計画

【学校法人物療学園】

○法人事務局

- 1) 安定した学生確保に基づく事業活動収入と計画的な予算執行及びコスト意識の浸透並びに、法人会計処理及び監査体制の強化に基づく健全な財政基盤を強化する。
- 2) 寄附行為に基づく全ての内部規則等を適切に制定・施行し、大学運営に関する法令を遵守し必要時に適宜見直す。
- 3) 内部監査室による年次計画に基づき定期監査と臨時監査を実施し、監事や会計監査人と連携して管理運営機関としての役割を担う。
- 4) 学生生活及びアメニティ環境を充実させるため、学生のニーズに基づく安全で適切な教育環境の整備を図る。
- 5) 中・長期計画の軌道修正を行うため、IR機能を強化し、学園の意思決定を補う体制を構築・運用する。
- 6) 法人全体の職制及び職務を明確にし、業績評価制度及び人事考課制度による評価と組織規程に基づいて人材を配置し、適正かつ円滑な管理運営を行うための組織編制を行う。
- 7) SD研修を計画的に実施し、人材の資質向上を目指し学内業務へ活かす。外部講習へ積極的に参加し、対面型研修とオンライン研修を並行して受講し、教職協働により組織力をより高める。

- 8) 認証評価に準拠した自己点検・評価チェックリストに基づき大学評価委員会にて評価活動を行い、課題や改善点を大学運営会議へ提言することで内部質保証のPDCAサイクルを適切に機能させる。
- 9) 倫理委員会が主導し教職員への倫理教育を適宜実施することで、高い倫理観を有する人材を育成する。

【大阪物療大学】

○保健医療学部（診療放射線技術学科）

本学の教育活動の基盤である「建学の精神」、「教育の理念」、「学部・学科の目的」、及び「4つのポリシー」に則り、学部・学科運営を進める。2025年度は、2024年度に実施したカリキュラム改定をもとに、教育内容の更なる精査と改良を行い、新入学生への実効性のある教育体制を確立する。また、診療放射線技師法改正に伴う業務拡大に対応した告示研修（実技研修）を引き続き学内実習に反映させ、診療放射線医療現場で求められる高度な知識・技術を修得できるよう、「教育」「研究」の両面で質の向上を図る。

さらに、教育環境の整備を進め、コロナ禍以降のオンライン授業や実習・研究に対応できる設備・教育機器を充実させることで、「地域社会への貢献」を強化し、地域と連携した社会に開かれた大学を推進する。ICTシステムの活用を拡大し、IRワーキンググループと連携することで効果的かつ柔軟な教育の実践を目指す。

(1) 教育

教職員が一丸となり、教育の質の向上と学力強化を図り、学生の国家資格取得に繋げる。また、教員のスキルアップを目的に、講義参観やFD委員会による年3回の研修会を継続実施し、充実した初年次教育と科目間連携を意識したカリキュラムを実現する。さらに、医療界におけるタスクシフトおよび診療放射線技師の業務拡大に対応した教育内容を充実させ、外部医療施設との連携を深めながら学内での実習や演習内容を強化することで、診療放射線学の学位にふさわしい医療人材の育成を目指す。

- 1) 1年次生教育：改訂された教育課程に基づき、新規ゼミナール科目を効果的に配置し、アカデミックスキルズの指導、基礎教育、専門基礎科目の実験を通じた体験学習の確立を図る。
- 2) 2年次生教育：講義と学内実習を連携させた専門基礎教育の実施により、連続性を持たせた教育を提供する。
- 3) 3年次生教育：改訂カリキュラムに基づく臨床技能教育と臨床実習を連携させ、診療放射線技術・技能を習得するための臨床実践教育を実施する。
- 4) 4年次生教育：各ゼミナール科目を通じた基礎知識の充実に加え、卒業研究を通じた自立学習体制の確立および国家資格取得を目指した総合教育を実施する。

(2) 研究

研究活動においては、倫理とコンプライアンスを遵守しつつ、責任ある研究を推進し、成果を積極的に発表する。また、学内外での連携を深め、産学官連携や科学研究費補助金など外部資金の獲得を目指す。

- 1) 研究成果の積極的公表
- 2) 外部資金獲得と産学官連携の推進
- 3) 研究倫理・コンプライアンスの徹底

(3) 社会貢献

市民公開講座を引き続き年 2 回開催し、大学の人的・物的資源を活用して地域社会への貢献を進める。

- 1) 市民公開講座の継続実施
- 2) 学会・研究会への参加および勉強会の開催
- 3) 地域社会貢献セミナーの開催

(4) IR ワーキンググループ

学内外の評価や教育・研究・社会貢献の質向上を目指し、関連データの収集・分析・検証を継続的に行う。得られた情報を活用し、学生や教職員に有益なデータを提供することで、教育の質向上や研究活動の促進を支援する。また、大学運営において中長期的な視点での合理的な意思決定をサポートするための情報整備を進める。

(5) 実習ワーキンググループ

実験・実習関連業務の円滑な遂行を図り、設備や機器の段階的更新を継続する。学内外の実習施設と連携し、学内実習・臨床実習において必要な知識と技能を提供する講義を強化し、OSCE (Objective Structured Clinical Examination ; 客観的臨床能力試験) などを活用した臨床技能評価を推進する。また、診療放射線技師の業務拡大および告示研修を引き続き学内実習に組み込み、実践的な教育を提供する。

臨床実習施設数については、2024 年度の増加を基盤に、今後も学生の満足度の高い環境を維持し、1 施設当たり 1~4 人程度の適正な配置を行うことで、より効果的な実習環境を提供する。

(6) 国家試験対策ワーキンググループ

国家資格取得を目指す学生の支援を継続し、2025 年度も国試対策ゼミを充実させる。IR ワーキンググループと連携し、問題データの分析を進め、正答率 5%未満かつ識別指数 (-) の問題については、問題内容を吟味し、問題内容が国試模試問題としてふさわしくないと委員の意見が一致した場合は、削除問題とする。正答率が低くても問題として適正と判定された場合は、出題者が講義や国試対策で問題の解説を行い、学生の知識向上にフィードバック

させ、学生の理解不足分野の特定と改善を図る。また、模試問題の他大学との共有を活用し、校内模試の精度を向上させる。これにより、学生の学力向上と本学の国家試験合格率向上を目指す。

○大学事務局

(1) 総務課

総務課は、PDCA サイクルを徹底することにより業務効率や水準のさらなる向上を目指し、円滑で着実な大学運営に貢献する。さらに、各部署や教員との連携を図ることで業務管理の体制をより強化し、信頼のおける部署であることに努める。また、事業計画及び予算に基づき、経費の効率的支出を徹底するとともに、計画的かつ適正な予算執行を促すことにより安定した経営基盤づくりに尽力する。

学生表彰選考委員会においては、本学独自の給付型特待奨学金制度により学費支援の充実を図る。「奨励賞（特待奨学生）」では、修学に熱意を持ち人物・成績ともに優秀で、他の学生の模範として学業に取り組んでいる者を支援し、有為な人材を育成することを目指す。「大阪物療大学 学長賞」「奨励賞」では、学業並びに課外活動においても優秀な成績を収めた個人又は団体を表彰し、学生の意欲向上を図る。

(2) 入試課

文部科学省が進める高大接続改革や公正確保等に係る議論を踏まえ入試委員会と連携し、受験生が受験しやすい入試制度構築ため、入学選抜方法や運営体制の見直しと改善を行う。基本方針を学生募集要項並びに本学ホームページ等を通して学内外へ周知し、入学者選抜を公正かつ適切に実行していくと共に、アドミッションポリシーにそった学生確保に努める。さらに、本学ホームページや入試出願方法の改修に努めると共に、広報委員会と連携し、高校 1、2 年生に対するアプローチを強化したオープンキャンパスの立案・開催やフリーキャンパス、積極的な高校訪問や進路ガイダンスへの参加等を通し、早期からの学生確保に繋げていく。併せて、外部進学 WEB サイトや SNS、ポスターや DM などの広報媒体を活用し、大学の知名度向上を図ると共に志願者増加に繋がるよう努める。また、社会貢献の一環として、出張講義の実施や堺市と連携した市民公開講座を継続的に計画し実施していく。

(3) 教務課

2025 年度は、本学において現行の課題として 1～4 年次までに修得した知識の定着が図られていないので、学生の主体的な自学時間を確保しながら、より効果的に診療放射線学に関する知識を教授するため、教育課程の変更を行った。そのため、1 年次生にはオリエンテーション等でその内容について学生への周知を徹底し、学生間で不利益がないように運用していく。

また、IR に基づく各種データの分析を通して、教学面での質の向上に向けた取り組み

を継続すると共に、ディプロマポリシー（達成度）に関する評価システムの構築及び成績評価の適正化に向けた方策の検討を引き続き行う。

所轄の教務委員会及びFD委員会と連携し、学生の教育・研究に関する業務及び学内実習・臨床実習の実施に関する業務を円滑に遂行する。特に、新カリキュラム対象が1年次生、2024年度施行のカリキュラムの対象が2年次生、2022年度施行のカリキュラムの対象が3・4年次生となることから、新カリキュラムとの並行した運用を円滑に行う。3年前に導入したICTシステムが効果的に活かされ、学生の教育の質の向上に活かされることを目指す。

(4) 学生課

学生課は、学生が大学生生活を快適に過ごすための支援、および大学行事の円滑な運営ならびに、学生自治会・課外活動活性化のための支援を学生委員会と連携して推進する。

相談室の利用については、周知方法を改善して認知度を上げ、学生が気軽に相談することができるよう学生支援に努める。また、「学生意見箱」の設置や、web回答できる「学生生活アンケート」を実施し、学生が自主的に意見・要望できる場を提供し、さらに必要な改善を着実に実行することによって、学生の立場に立ったサービスの提供に努める。また、課外活動については、活発に活動を行える様に積極的な支援を行い、学生の心身の健康管理を徹底する。そして、大学生生活をより実りあるものにし、将来医療人として活躍できる、より豊かな人間性を育むサポートを教職協働で行う。

就職支援では、現在行っているキャリア・就職ガイダンス内容を見直し、早期から就職活動の意識づけを行えるように工夫する。これを通して、早期化しつつある選考スケジュールに対応できる学生の育成を目指す。加えて、4年次生に対しては実践的内容を踏まえたキャリア・就職ガイダンスを行い、早期の内定獲得を目指す。さらに、図書室の就職関係書籍の整備を通して、学生の選考対策に資する。また、病院施設を訪問することにより、学生の就職先施設との連携を図り関係性の構築、求人票に記載されていない採用情報の収集などに努める。そのほか、卒業生や就職先施設に対してアンケート調査を行い、その結果を踏まえて学生や社会のニーズに合わせた支援構築に努める。そして各自の希望に沿った進路の実現に向け、就職委員会と教職員が一体となってサポートを行う。

(5) 施設課

事業計画及び予算に基づき、既存施設の維持・管理を礎に、社会に求められる共創拠点として教育環境と研究環境の整備を進める。教育と研究を安心・安全に行うため学舎と既存施設の補修・補強を行い、環境対応型社会に適する改修を促進する。また学生のキャンパスライフ向上を狙い、キャンパスアメニティの整備・更新を行い、大学設置基準に基づいたハード面での環境整備を進める。

情報部門では、本学のICTシステム環境の整備を図り、学内の業務効率の向上、及び学生サービスの充実を図る。また、IRと連携して、大学運営や大学改革等に必要な情報の収

集・分析を支援する。

図書館では、診療放射線学に関する分野を中心に医療関連や国家試験対策本など学修ニーズに即した資料、および他の各種委員会の要望を反映した資料を収集する。特に、学生の自宅学習にも役立つ電子書籍を購入し、定期的に学生へ案内して利用を促進する。また、より新しい医学・医療情報を提供できるように、学生や教職員の要望、意見を参考に関連雑誌の購読を検討する。今後も引き続き、利用者が図書館を安心安全に利用できる環境の整備に努め、サービスの充実を図る。

紀要委員会では、研究成果を発表する機会として毎年紀要を発行し、本学ホームページやJ-STAGEへの掲載を行うことにより、広く学外へ発信する。また、研究活動の活性化や質の向上を目指すとともに投稿数を増やすように努める。紀要の充実を図るため、投稿規程や原稿作成要領の整備も進めていく。